

文化会館等施設に関する地域説明会（藤原地域）

日時：平成 30 年 11 月 14 日 18：00～19:50

場所：藤原公民館

参加者：20 名

大嶋市長

皆さんこんばんは。お仕事のあとということで、今の時間帯でお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。実は昨日、自治会長の研修会で鬼怒川のほうに夜泊らせてもらいまして、朝帰りまして、また夜まいりました。この文化会館の地域説明会に関しては、自治会長等には、一度お話をさせていただいたのですが、広く市民の皆さんにもう一度説明をさせていただきたいということで、お声がけをさせていただいたところでもあります。議会のほうに、市の長期財政の収支見通しについてという資料が前回なかったのですが、今回付けさせてもらいました。市長に就任させていただいてから、今後の財政の見通しというのが、私自身が非常に知るべきというか、大切なことだと思ひまして、財政課のほうに指示を出させていただきまして、見通しを出させてもらいました。詳しくは、のちほど担当課のほうから説明をさせていただきたいと思ひます。今の経済状況で、不測の状態が起きずに、このままでいったときという想定であります。何かリーマンショック級のことが起きたときには、当然数字は狂ってきますし、いろいろなことが起きると、その数字も変わる可能性がありますけれども、当面今の状況が続くと仮定をしたときに、こういう状況になるという数字であります。少し限られた時間ですけれども、その説明もさせていただきたいと思ひます。人口が減ってくる中、ある程度この広い日光市においては、公共施設を整備・統合していかなければならない。その中で、今、市として考えられることを、まず、この文化会館の整備・統合というところから、市民の皆様にご説明をさせていただきたいということの説明会であります。ぜひ限られた時間になりますけれども、ご意見賜りますようよろしくお願い申し上げます。今日はありがとうございます。

自己紹介

説明事項

質疑応答・意見交換

市民 1

ご説明ありがとうございました。7点お聞きします。まず、7ページの繰入金の平成40年から1億7,000万円とありますが、基金残高が平成39年でゼロになるとおっしゃっていました。7ページの1億7,000万円は繰入金で最初のご説明だと、基金残高だったりとか、いわゆる市の貯金とおっしゃっていたのですが、その市の貯金とおっしゃっていた基金等々の残高の推移がゼロになるということで、13ページで説明がありました。13ページの主な基金残高（市の貯金）の推移で、平成39年以降がゼロになると。でも7ページの歳入項目のシミュレーションで、繰入金とい

う区分で平成 40 年以降も 1 億 7,000 万円の繰入金があるのですが、まず、どこからの繰入金なのか、どういう予定をしているのか教えていただきたいのが 1 点目です。あと 23 ページの歳入が減るのはわかるのですが、その収入・歳入を増やすための施策というのはお考えなのか 2 点目です。3 点目は、地域コミュニティが使用できる施設というのは、やはり取り壊しのあと、どのようにすればいいのか。この藤原地域は、先日もだいたい 300 人以上の PTA 育成会関連の地域イベントを実施したところなのです。実は僕、藤原 PTA 連合会の会長をおうせつかっておりまして、来年以降のイベントが白紙になっております。第 50 回の子供会大会というのが来年迫っているのですけれども、藤原のところはたぶん使えないだろうということで、今、議論が止まっているのです。そういったところの藤原地域の PTA だったりとか、子供たちが多く集まるためには、どうにかしないとイケないかなということがあるのです。もちろん民間企業とのお話し合いの中でのことだと思うのですが、どのようにお考えなのかお聞きします。それに合わせて、4 点目は、34 ページに民間企業からの意見集約とあるのですが、具体的にどこの民間企業というのがあるのかどうか。その民間企業というのは、たぶん受益者だとまずいと思うのです。要は、そこを購入する民間企業の意見を聞くと、その方向性へ流れてしまうので、公平な中立的な民間企業からの意見として、シンクタンクとしてお聞きするのはいいと思います。合わせて、ここは藤原地域なので、PTA の会合であったりとか、親御さんを入れると 300 人以上になりますので、その辺のお考えがあるのかどうか 5 点目です。藤原は、確かに 400 人未満が多いのですが、1,000 人規模が何回もあることがあったのです。東武観光祭りといって、それこそバス 40、50 台で来るのが年間でありました。実際には、集計で 400 人規模になるのですが、やはり 400 人規模は、1,000 人規模があるからこそその集客 400 人規模だと思いますので、実際には、適正に使われているのではないかなと思います。6 点目は、取り壊しの際に大体いくらかかるのかお示しいただけるとありがたいです。あと最後に 7 点目は、31 ページの利用状況なのですが、確かに年々低くなってきているのですけれども、実は、この 1 年間光熱費を削除されてしまって、6 スパーンある 200 人ぐらい入れる会議室を含めた全ての施設が、電気が通ってないために使えないということでお断りされているのです。そういう施設の光熱費等々が止まって、今 1 スパーンしか使えないのですが、その前のやはり数字をお示しいただいて、数字として我々に教えていただきたいと思います。以上 7 点です。

久保財政課長

それでは財政のほうから、1 点目の繰入金のお話についてお話をさせていただきます。市が持っている基金につきましては、先ほどお話をさせていただきました財政調整基金だったり、減債基金、合併振興基金のほかに、いくつもの基金があります。基金がなくなってしまうというのは、先ほどお話しさせていただきました財政調整基金、減債基金のほか、合併振興基金になるのですが、そのほかにふるさと応援基金というものがございまして、そちらについては、やはり、その他の基金については、残していつて運用せざるをえないということもありますので、平成 39 年度以降に約 1 億 7,000 万円ほど基金の繰入があるということで、今、見込んでいるところでございます。

市民 1

前に見たことあるのですが、17 億円か 18 億円あるのがそれですか。

久保財政課長

ふるさと日光応援基金につきましては、1億円台になります。

市民 1

1億円台なのですね。

久保財政課長

今、それが約1億円入ってきて、次の年に1億円を事業費の財源として繰り入れるというかたちになっております。

市民 1

そうすると、1億7,000万円ぎりぎりの歳出ということで、わかりました。

久保財政課長

2点目の歳入を増やすというお話がありましたけれども、今、財政の担当として考えていることは、先ほどお話しさせていただいたように、歳入の確保と歳出の抑制という2点なのですが、歳出の抑制というものに関しましては、先ほどの項目の中にありますように、一応8点ほど書かせていただいております。1点目から5点目につきましては、日光市におきましても、第3期の財政健全化計画というのがあります。そちらで取り組んでいる項目であります。そして、今回の長期財政の収支の見通しを策定した中で、課題としてあげられてきたものの解決方法として、⑦・⑧番を新たな取り組みとしてやっていきたいというかたちで考えているところです。また、歳入の確保といたしましては、⑤番のところに財政調整基金の恒常的な取り崩し抑制と一定規模の残高の確保というところに、アンダーラインが引かれているかと思えますけど、この長期財政の収支見通しの中では、先ほどお話しをさせていただいたように、財政調整基金については、全額取り崩すということで見ているのですが、この財政調整基金というのは、年度間の財源調整のほか、不測の事態が生じた場合、災害とかそういった場合に備えて蓄えておかなければいけないということもありますので、ある程度一定規模のものをやはり蓄えていく必要があるのではないかと、ここで、新たな課題としてその対策として、ここに計上させていただいております。歳入の確保とか歳出の抑制というものをやっていくのですけれども、さらに、この17億円という収支不足を解消するにあたっては、新たな財源の確保というのも必要になってくるのかなと思っておりますので、それにつきましては、今後、財政課の中で、オーソライズした上で、財源の確保を図っていければというふうに考えているところでございます。以上です。

市民 1

実際には、歳入の増加に関しては、ぜひ、我々と一緒に考えていただければと思います。もう定住人口は増えませんので、極力ヒト・モノで売って行って、歳入を上げるお手伝いできればなと思います。よろしく申し上げます。

神保管財課長

それでは、私のほうから3点目の300人規模のイベントについての対応ということで、こちらは資料の32ページにありますとおり、今後、細かい点については調整させていただきたいと考えておりますが、こういった代替施設を利用させていただくという案で、今のところ考えております。また、34ページの民間企業ということですが、これは、まだまったく白紙の状態ですので、いろいろご提案をいただいた中で、良い方法を考えてまいりたいと考えております。

市民1

ぜひ、お願いしたいのが、子供会とかPTA、育成会というのは、なかなかお金もないですし、藤原PTA連合会の全部の予算も十何万円しかないなので、どうしても公共施設を使わせていただくと非常にありがたいので、この中のどれかをやるのであれば、もしかしたら補助をお願いしたりとか、そういうのもあるかもしれないです。よろしくお願いします。

神保管財課長

言葉が足りませんでした、そういった支援も含めて、今、検討しているということでございます。よろしくお願いします。

市民1

ありがとうございます。

神保管財課長

次に、年に1回の1,000人規模のイベントということについては、正直、藤原地内ということになりますと、壊してしまうと難しくなるということは、市のほうでも理解しているところです。少し遠くなりますが、今市の大ホールを利用させていただくとか、例えば、鬼怒川地区の特徴というか、強みでもあるかと思うのですけれども、民間ホテルの大きなコンベンションホールをご利用いただく、それに対して公的な利用であれば、先ほど申し上げたように、市のほうで使用料をなんとかサポート、そういったかたちでできないかということを考えております。次に、取り壊しの費用につきましては、まだこれから算定するので、現時点では出ておりませんので、今はお示しできないというところです。最後の利用状況について、使える状況でのシミュレーションということなのですが、今日は手持ちがございません。今、まさにそれが問題になっておりまして、この老朽化をどうするかという観点から、今回のお話というものが出ていますので、その点につきましては、今後、サウンディングであるとか、跡地の利用の中で、より良い方法を考えてまいりたいと考えております。よろしくお願いします。

市民1

ありがとうございました。

市民2

何点かお聞きしたいのですが、まず民間事業者というお考えで、検討しているということなので

すけれども、他市町村でやっている中で、公立ですから宿泊もやりたいと、飲食もやりたいと、会議室のキャパ、その辺に具体的な例があるのですか。それから、ここは温泉地でホテル業もありますから、宿泊はさせないとか、その辺の具体的なものがなくてはいけないし、廃止するときに代替案をこれから検討するではだめです。やはり、市民や住民に、廃止したあとのその姿が見えてこなくては、これは詐欺になります。ですから、これをきちっとしなければいけない。それから災害のときに、今まで、どこでもそうですけれども、公民館とかいうものは、災害の基地になるわけです。その災害との関係をどう考えているか。イタリアなんかは、24時間以内に20万戸の仮設住宅ができるということになっているわけです。そういうことも含めて、合併は国が始めたことですけれども、やはりこういう状況になったことは、日光市の市長は1人しかいないのですから、もっと国にこういう現状ですときちっと言って、みんなの文化のよりどころである文化会館まで維持できない、このような話はなかったということ、市長には言っていただきたい。それから、先ほどの民間宿泊施設を使ったときの利用率ということですけども、今まで藤原でやった会議の数を、民間にした場合のシミュレーションができてなくてはおかしいです。つまり、これくらいの料金だったらA案・B案・C案でもいいので、その料金が出なければ、民間にしたからといって安くなるという保障はないわけです。民間は赤字が出てはいけないですから、その点をお聞きしたいです。どこまで具体的に料金、それからシミュレーションをしたかどうかです。今まで、藤原であった会議の回数を有料にした場合、民間にした場合どれくらいの費用になるかというのを、皆さんの前にお示しをする必要が私はあるのではないかと。それから、せっかくの機会ですから市長にお話ししたいのですが、これから入込も多いですから、やはり日光市はコンベンションシティを目指すべきだと思うのです。この地域から1,000人規模の会議室がなくなると、いろいろな会議ができなくなるわけです。鬼怒川の例で言いますと、ホテルにとって、これから会議室は持たない方向になっているわけです。持って失敗したとこも、皆さんご存知のようにあると思うので、ですから、公である程度賄っていくという考え方がなければ、この地域、特に日光それからあれですね。最後の質問ですが、日光と藤原の入込数がわからなければ、こういう計画は立てられないと思いますので、日光市全体ではなくて地区別の観光の入込数というものをお示ししてください。

神保管財課長

それでは、まず1点目の壊したあとの代替案についてお答えいたします。確かに、壊したあとどうなるのかがわからないと、不安になるという点もあるかと思うのですが、両方の会館とも立地条件がいいものですから、更地にした上で何ができるのかというご提案をいただいたほうが、より自由な発想をいただけるということをお考えして、そのような段階を踏ましていただいと。

市民2

それは間違いですね。そんな馬鹿な話はないです。

神保管財課長

そういうかたちで進めております。

市民 2

面積図面があるのに、更地にしなければ民間のアイデアが浮かばないなんて、そんな詭弁を言うてはだめですよ。みんな笑っていますよ。更地にしなければイメージが湧かない、そんな馬鹿なことがありますか。

市民 3

それが決まっているとなると大変です。我々の意見を聞く必要がなくなってしまう。

神保管財課長

そうではなくて、財政的に、市単独では同じような規模のものをつくることというのは難しいですから、それでサウンディング型市場調査というかたちで進めております。

市民 2

更地にするということにして、それからだという話では、意見を聞く必要がないのではないかということですか。更地にしてしまうというのは決まっているのですか。更地にするのはいいのだけれど、その前にどういう利用をするのですかと聞いているのです。

具体的に、宿泊施設があるのか、会議室は4割、5割つくってくれなければ困りますと、それは、市のほうが持ってなければ民間に任せるではしょうがないです。9割が宿泊で飲食もやります、会議室はせいぜい2割で費用もこれぐらいですと、そしたら使えない会議室になる可能性があるのではないですか。市のほうが、会議室の値段ここまでですよ。先ほど申し上げたように、藤原で今までやった会議を民間に委託したらどれぐらいの費用になるかというシミュレーションをやらなければ、話にならないでしょうということですか。

上中副市長

1番目のご質問というのは、例えば、サウンディング調査ということで、これから、あそこを仮に廃止にしたときには、次に考えられるのは、どのような方法論がありますかというところを、民間の知恵を借りましょうというところが、サウンディング調査ということです。この辺は、市役所のほうも得意でないところがあります。考えをいただくにあたって、鬼怒川という地域については、旅館もたくさんありますし、あの場所で言いますと周囲には飲食店や土産物屋さんとか数多くありますから、例えば、そういったところと競合するとか、そういったことを避けると言いますか、そういった発想ではないという条件を設定した上で、サウンディング調査というものをかけさせていただこうと、そのようなイメージで先ほど申し上げたつもりでおります。ですから、建物を全部取り壊してしまうということではなくて、そこはアイデアをいただいてということなのですが、取り壊さなくては利活用できませんし、あの古い建物をこのまま維持していくわけにはいきませんから、そこは、やはり取り壊した前提でと申し上げております。

市民 2

その件で、手を上げる企業がなかったらどうするのですか。

上中副市長

直接的に、その企業が、そこをどうかするということではなくて、民間企業が携わるのは、そこにとどのようなものをつくるとか、利用するのかというアイデアを募るということです。

市民 2

業者はアイデアを出すでしょう。しかし、サウンディングをやらせて、例えば、入札だとか応募でやった場合に、手を上げる条件が厳しくて、そんなのでは合わないと言って出なかったら、文化会館を壊し更地にしました、3年、5年会議室ができません。だから、僕はワンセットにすべきではないかと。しっかりとアイデアを出して、それで壊して24カ月後にはできると。まず更地にします、サウンディングに任せます。それは、市役所が指導権を持ってやるべきです。

上中副市長

サウンディングをかけると言っていますが、先ほどから説明していますように、基本的に1,000人規模のホール的な施設というものを、今後維持していくのは非常に難しい。例えば、200～300人が使うことができるものは、ここに案として示させていただきましたけども、そういったことで、代替施設として考えていただけませんかというところがあるのです。例えば、サウンディングの中で、ある民間のサウンディング提案者が、もしかしたら、そこに200人規模の集会施設を含めたものを提案してくるかもしれません。それは、蓋を開けてみなくてはわかりませんが、基本的に市の考えとしましては、その200～300人規模のものを、そこに新たに設けるというところの条件設定までは、今のところ想定はしていませんが、提案として入ってくる可能性はゼロとも言えません。ただし、できれば他の施設を利用しながら集約化を図っていかないと、ただ置いとくだけでも維持費が7～8,000万円かかってしまうということですから、そこは、何とか節約観念を持っていただければなというふうに思っているところです。以上です。

市民 2

先ほどの1,000人規模のときは、今市の会館を使ってほしいというお話でしたが、車でも出してくれるのですか。それは無理だと思います。実際に藤原の1,000人規模の集まりを今市の文化会館でやってくれと言ったって、1,000人からの往復の時間を考えたら、経済的なロスでもあるし実際に無理です。やはり藤原なら藤原、日光なら日光にあったことを考えてくれないと。残りの件だけ答えてください。

大嶋市長

〇〇さんから私にも質問がありましたが、1,000人の方が移動してくるときは、都会から来るかどうかわかりませんが、バスか東武鉄道で来ると思いますので、今市は途中ですから。

市民 2

先ほど今市の文化会館に来てほしいとおっしゃったのです。

大嶋市長

〇〇さんからの質問は、国際会議場をつくれという話がありましたね。

市民 2

これから、入込もあるからコンベンションシティの構想はないのですか。市長自体、考えを持っているのか、持っていないのか。それによって、この計画だって違うわけです。潰してしまっただけから、今度コンベンションシティなんて言ったって、市長笑われますからね。

大嶋市長

笑っていただいて結構ですけど、私は前回の自治会長の集まりで、更地になった後に、今の大前提は、市は3つの施設を持ちきれませんと言いました。だから、1つにしなければダメなのです。更地にした後に、市がそこに何億円というお金を出して、公共施設をつくることはありませんと前回の集まりで私は言いました。だから、国際会議場に見合ったものをつくるつもりは、私が市長のうちはありません。それは申し上げます。まずは、3つの施設を持ちきれないので、壊させていただきたいという話をしました。壊した後に、民間の資金を使って、民間の人がそこに建物を建てていただいて、その建物の中身はどうするかというのは、民間業者も建てたからには市に固定資産税を払います。地べたは、無償で30年間貸します。民間事業者が、例えば、温泉ホテルはいっぱいあるけど、ビジネスホテルはないからビジネスホテルを建てて収益を上げようとするかもしれないし、その中に会議場をつくるかもしれないし、それは民間の知恵を借りないとわかりません。市はそこにお金は出さないつもりでいます。お金は出せません、お金がないのです。それをつくっていくと、一般の市民生活ができなくなります。福祉、教育、障がい者福祉、子育て支援、今やっているサービスができなくなります。ですから、国際会議場をつくる気はございません。以上です。

市民 2

今の話は納得できないけれども、今、ホテルの可能性があるとおっしゃいましたが、例えば、スーパーホテルや東横インだとか、あそこなら宿泊にいいから出てきて、だから僕が言いたいのは、あくまでもワンセット、要するに更地にして、それから民間の意見を聞いてやるというのは、これは住民をだますことになります。しっかりとした計画があるから壊しますという話ならわかるけど、維持費がかかるから、まず壊しますということでは、住民不在というしかないと思います。

大嶋市長

それだけ使用件数が少ないからです。これが70%も80%も使っているなら言わないです。年間7,000万円かかっているのに、1回の会議にいくらかかっているのですか。それは市民が払っているのです。

市民 2

どこも同じです。

大嶋市長

私は選挙のときに、文化会館を統合しますと話をしました。だから詐欺でも何でもありません。詐欺なんて言うのは失礼です。

市民 2

失礼ではないですよ。しっかりと提案してからやらなければ、詐欺になりますと言ったのです。

大嶋市長

壊すことについて、皆さんに理解をいただくために説明会をやっているのです。

市民 2

今日の説明会だって 30 分じゃないですか。

大嶋市長

決まるまで 5 年間そのままにしていたら、市民の税金が 3,500 万円かかるのです。そちらのほうが無責任です。

市民 2

僕が言いたいのは、ワンセットでやるべきだし、先ほどホテルの話が出ましたが、スーパーホテルが手を上げたらスーパーホテルが来て、それこそ合わないと困るから、8 割方は客室にしますということで、2 割の会議室の賃料はどうなるのですか。民間だから高いですよ。それは、ワンセットでこれくらいになりますというところまで、市は住民に示してやらないと。

大嶋市長

勝手に市がホテルでいいでしょう、建ててくださいなんてやらないです。それが決まるまでやってはならないというのは、〇〇さんの意見だと思うのです。

市民 2

先ほどの民間の宿泊施設の利用料が、民間にした場合に、どれくらいになるかというのはシミュレーションされたのですか。

大嶋市長

7,000 万円はかからないと思います。30 回の会議や集まりを持っているものを、ホテルの会場を借りて使用料を払っても、7,000 万円にはなりません。

市民 2

市長は、金目のものばかり言っているけれども、文化施設の意義は。

大嶋市長

わかっています。だけど、3つの施設は持てないのです。だから、1つにしたいという話をしています。だったら、鬼怒川にその1つをつくれというのが〇〇さんの意見ならいいのです。

市民2

だから、今市につくることはないでしょうねと言いたいけれど。

大嶋市長

今市は耐震ができていて、今は使えるのです。

市民2

そうすれば、また建て替えの話が出てくるわけでしょう。

大嶋市長

どこにですか。

市民2

どこかにです。

大嶋市長

今市を改修するか、建て替えるかというのはまだこれからです。それを決定しないと、何も進めないで、いたずらにお金がかかり続けて、それこそ無駄になるから、早めに決めて壊させてくださいというのが市の意見です。そのために説明に来ているのです。

市民2

よくわかりました。私の考えとしては、やはりワンセットで。どういうものができるのか具体的なイメージができるかなと思ったら、まったく逆ですね。まったくイメージはできません。以上です。

市民4

1つ先ほど聞こうとしました土地の問題がどうなのかなということでしたら、一応30年とか50年とかの貸与みたいなかたちでは考えられているのですか。

大嶋市長

例えば、もし事業者が買い取ってくれるという場合の話です。

市民4

買い取るというのは、何を買い取ってもらうのですか。

大嶋市長

土地です。

市民 4

私の意見なのですけれども、土地は、あくまでも日光市が持っていてほしいと。上物に関しては、いろいろな皆さんのご意見を調整しながら、新しいものをつくるなり、運営をするなりというのはありかもしれませんが、この土地に関して1番問題なのは、この鬼怒川は廃墟が多いわけです。土地の問題で1番苦労しているわけです。一等地ですから、そういう意味では、市がやはりこの土地は持っているべきで、上物に関してのいろいろな議論をすべきだと思います。土地に関しては、日光市が持っていてほしいというのが私たちの願いです。それともう1つ、民間事業者との対話サウンディングということなのですが、これは住民目線だけではなくて、観光目線での活用の方法というのが今まで考えられてなかったのです。観光で今まである文化会館を使おうとしても、音響の不備とかいろいろなことがあって、使えなかったというのが現実です。これは民間目線という中で、住民目線と観光地としての、ここの場所の活用の方法というのを、しっかり一緒に考えた中で、どういうふうなことがやれるのかということも考えていかないと、文化会館のような大きな施設としての必要性はあるのです。あるのだけれども、使えなかった理由もあるということを少し考えていただきたいなというふうに思います。それと、民間事業者との対話を、どのようなスケジュールでやるのかというのが全然わからないので、そういうスケジュールも教えてほしいと思います。それと、先ほど観光危機管理の問題がありました。観光危機管理に関しても、しっかりしていけないといけないと思いますので、どのような危機管理が新しくできる、もしくは、つくろうとする施設にできるのかということも、先ほどの観光関係から一緒に考えてほしいと思っています。最後に、ホテルからですけれども、民間宿泊施設の利用ということでおっしゃっていますが、今、大きなホテルは、ほとんどがバイキング会場になってしまって、会場が使えないのです。そういう意味では、昔ここは群馬県のあるところと会議場を競っていました。ところが、こちらは個人会場になってしまって、会議場というのがほとんど使えないのです。当館でも、宿泊部屋は空いていても、会議室はいっぱいで使えないというような状況になってきています。そういうふうなことで、民間の宿泊施設の会議場を使うというのは、少し難しいのかなというふうに考えております。ぜひとも、民間事業者との対話の中で、観光目線のそういう施設をつくっていただければなと考えていただければなと思います。

上中副市長

まず、貸与か売却かという話ですけれども、これは貸与をまず基本に考えていますので、そういった大きな視点でいろいろな提案が出てくるということは、想定としてあるから、市長のほうもそういうふうに申し上げたと、ご理解いただければと思っています。それと、サウンディングの事業者から、いろいろな提案があがります。これもあくまで提案であって、それをそのまま採用するかどうかということを決めているわけではありませんので、それを咀嚼して、もしくは、その段階でいろいろな方たちのご意見を聞いて、その中でサウンディングの1つが良ければ、それを採用することになるかもしれませんが、それはあくまで参考意見という話になります。それと、対話に関しては、もちろん対話をしていくつもりでおります。まず民間の施設の利用に関し

てなのですけれども、確かに今バイキングとかでお使いになって、会議室の稼働率が高いから、そこを協働利用なんてできないというお話だと思うのです。あくまで、すべてのものを代替でホテルさん利用ということではなくて、もちろんこの場所も使いますし、いろいろなところ、空いているところをフルに使って工夫していきましようというのが基本です。ただし、その中でもオフィシャルな、例えば、少し格調の高いようなレセプションとかがあったときは、もしホテルさんが空いていれば、利用可能ですかということ働きかけたいと思っています。現実には、観光協会、旅館組合さんのほうにも非公式に相談しました。そのところは、旅館の知名度と言いますか、この地域の特有の資源でもあるから協力してもいいのではないかなと、そういったご意見を言っている方もいらっしゃいます。最後に危機管理に関しましては、あくまでホールが、一時的な避難場所ないし、今まで避難場所になっていたのですが、長期的な避難と命を守るための緊急避難というのは、2種類分けて考えています。長期的な避難場所となると、例えば、小学校・中学校とかの体育館、もしくは、違うところに移動していただいて、長期的な避難をすることができます。ただし、土砂災害ですとか、地震で間に合うかどうかはいずれにしても、そういった瞬間的に命を守って、災害をやり過ごすための緊急避難場所として利用するというところについては、この会館がもしなくなった場合は、それは、ホテルさんのほうに利用させていただきませんか、協力していただませんかということで、日光市内では何カ所も協定を結ばせてもらっているところもあります。その辺は、命を守るための場所としては、そういう考え方をお願いできればということです。

神保管財課長

サウンディングのスケジュールですが、11月12日月曜日から提案のほうを既に呼び掛けております。サウンディングは、提案をしてくださいということで、公表しているところです。1月以降に実際に意見を聞きながらということです。

市民4

それは、あとで、こういう紙でいただけますか。

神保管財課長

市のホームページに載っております。

市民4

すみません。日光市の悪い癖で、ホームページを見ればいいということなのですが、ホームページに入っていくのが難しいので、どこか経由で構いませんので、出してください。各団体のところを経由してもらうのが1番いいと思います。はっきり言ったら、ここにやっていますから見てくださいというのは日光市のやり方なのですが、私は絶対反対です。もう少し丁寧に、皆さに知らせるというのが必要だと思っています。最後にもう1つだけ、本当に観光関係の目線でこの地域をどうするのかというのを、観光全体で考えたことがないと思いますので、これは、ぜひとも観光部長いいらっしゃると思いますので、この地域は、今後どうしたらいいのかというのを含めて、い

ろいろ考えていただければなというふうに思います。一緒に考えていきたいとしたいと思います。よろしくお願いたします。

上中副市長

今のスケジュールというのは、あくまでサウンディング調査にあたってのスケジュールということなので、これをこの全戸に配布というのは難しいので、観光でいいですか。わかりました。

市民5

先ほどから聞いていると、市長は、文化会館を解体して民間に売買するというような考え方を言っています。固定資産税が上がるとか、そういう考え方ではなくて、先ほど〇〇さんが言ったように、あれを日光市で持って、民間に貸与というなら私は納得がいきます。売りました、大手が来てスーパーホテルが始まったら、私は鬼怒川振興旅館組合の組合長なのですが、みんな小さいところは潰れてしまいます。日光市が持っていて、条件にあった人に貸すというかたちをとっていただかないと。土地の話です。それと、今日は全然出ていませんが、私たち零細企業の旅館は、あそこの情報センターがなくなるのは、非常に痛手なのです。あと、公共のトイレの場所をどこに考えているのか。現実的にあと2年間しかあそこでできないのだと、2年後はどうなるかわからないのだという話を、事務職の人が私らに話しますが、やはり観光目線で考えていただかないと。観光は大嫌いだ、関係ないという人がいるのです。そういう人に意見など聞けないのです。特に外国のお客さんがずいぶん増えて、インバウンド関係でいらしていただいています。それでどうにか日光市のほうに固定資産税や入湯税を納めて、どうにかやっているわけです。それで民間が買いました、大手がスーパーホテルを建てましたとなると、どこでも影響してしまいます。こういうことがないように、先ほど〇〇さんが言ったように、貸与という考え方で、観光のために考えていただかないと、固定資産税が上がるから売ってしまえという発想は、私にはありません。〇〇さんが言ったコンベンションホールをつくりたいというのは、大きな意味で夢なのです。それでなければ、大きなお客さんは来ません。それを、お金が大変だから3つあるものを2つ減らして1つにする話は、今、聞いていてわかりますが、やはり観光推進には、どんどんマイナスなると思います。そこら辺を真剣に考えていただきたいとしたいと思います。

上中副市長

先ほども申し上げましたように極力と言いますか、これは可能性として申し上げただけですから、土地については貸与して、そこに民間の資金を入れていただいて、そこで、何かの構想を描いた上で、建物か施設を建てていただくというかという話です。それは、先ほど固定資産の話もありましたけども、そこに、市のほうでお金をなるべく出たくないというのがもちろんありますので、それは、民間の発想を利用したいというところになります。情報センターの話なのですが、前回の自治会長さんを中心にした説明をさせていただいたときも、ご質問が出ていましたので、ここについては、市の方でも十分に考えております。約束はできませんが、あの施設がなくなったから情報センターもなくなってしまうということだけは、第一に配慮したいというふうに考えています。情報の機能と観光協会の事務局も一緒に入っていたりするのですが、そこら辺がセットでどこかに据えられるかどうかというところは、今、少し検討しているところです。例え

ば、日光は駅の中に情報センター機能があります。それを今の東武鉄道の鬼怒川温泉駅の中に果たして確保できるかというところも、東武鉄道にも非公式で打診はしてはいます、そこら辺はお答えいただけるのではと思っています。あと、観光局の事務所についても何かの方法論を考えたいと、そこは確保できる方向で考えていますので、ご理解いただければと思っています。

市民3

日光市長が大嶋さんのときに、一等地を売ってしまったということがないように、それだけはくれぐれもお願いしたいと思うのです。それと〇〇さんのおっしゃっているように、民間の活力を入れるというのは非常にいい話なのですが、我々の旅館、宿泊に直接的に被害が及ばないような施設をぜひご検討いただいて、おやりいただければ非常にありがたいなと思っています。要望でございますので、お答えは結構でございます。

市民6

9月1日の土曜日に、会館取り壊し関係の説明会がありまして、このときにも出席をさせていただきまして、意見を述べさせていただきました。そのとき、私は藤原の会館につきまして、駅前を中心に都市計画事業が大事業として進められて、藤原地域の何よりの重点的な拠点施設なのですと申し上げました。これまでは観光の振興、また生涯学習の基地として、大きな役割を果たしてきました。旧藤原町の時代ですけれども、県内をリードする生涯学習推進の町ということで、県内でも指折りの生涯学習を推進してきた経過もありまして、この文化会館が大きな役割を果たしてまいりました。それが、この度には日光総合会館と、藤原文化会館の取り壊しという政策がこのほど打ち出されまして、私もびっくりしたのですが、5つの市町村が合併して日光市になった訳ですが、5つの地域、特色を活かした均衡ある発展というふうなことから、日光文化会館を取り壊す、藤原文化会館を取り壊すというのは、藤原と日光は痛手を被るわけです。それが均衡ある発展なのかという意見を述べさせていただきました。私が一番心配しておりますのは、公共的に集會する、集會する場がなくなることを心配しております。今ここで會議をしておりますけれども、公共的で一番多く集まれる場所というのは、ここしかないわけです。150人も集まったらいっぱいだと思います。この大鬼怒川温泉に、人が集まれる施設はここしかないわけです。そのようなことでいいのですかと思えます。9月1日の説明会には、副市長さんから鬼怒川には大きな旅館やホテルがたくさんありまして、會議する施設がたくさんあるから、それを使えばいいでしょうと、その調整関係については私が進めてみますというふうな、自信を持った発言がありました。私はそんな簡単なものではないと思えます。會議場がある施設は、もちろんたくさんありますが、宿泊をしないお客様が、フロントを通過して會議室まで行ったり、お客様を迎えるには駐車場も確保するようです。人手も確保するようです。そういうふうなことを現実的に考えると、使える場合もありますけれども、現実的にはなかなか難しいのかなというふうに考えています。副市長さんが努力するという事なので、それについてはその推移を見守りたいと思っています。それと、先ほど大嶋市長からもお話がありましたけれども、昨日に鬼怒川で自治会長研修会がありました。その中で、この文化会館の今日の話も述べられておりました。9月ときには、跡地の関係については、ほとんど具体的なことは何も言ってなかったのですが、昨日の自治会長研修会におきましてお話されたのは、エンターテインメント性が高く地域に貢献できる

施設を、民間資金を使って藤原地域に喜ばれるものをつくっていききたいというふうなお話でございました。この言葉を聞くと本当にいいなと思うのですが、民間に提案させるにおいても、かなりの縛りをいろいろつけないと、とんでもないものができるのではないか、提案されてしまうのではないかなど心配しております。今、プロポーザル方式で私たちの自治会にも、保育園をつくっておりますが、あのようなかたちで土地は貸して、建物とかはその業者がつくるというような方式を考えているのかなと思いますが、いろいろな縛りをつけないと、とんでもないような提案がされてしまうのではないかなど心配しております。話が戻るのですが、藤原地域で人が集まる施設が、ここ以外にはなくなります。この大温泉地ですから、せめて500人くらいの方が集まれる施設は、公共的なもので必要なかと思っております。先ほど事務局の方が、ここで集まれなければ、今市に来ればいいのですと簡単に言いますが、それはとんでもないことだと思います。今年度、小地域福祉施設サミットというのが、ホテル三日月でありまして、800～900人来ました。三日月自体でも足りないので、文化会館の会議室全部を使ってやりました。そういうものがなくなると、今市にあるから今市の施設を使ってくださいと、そうは簡単にいかないと思うのです。温泉地があってこそ、そういう企画が生きるのだと思うのです。今市に行く企画を提案しても、企画会社に断られてしまうと思います。市はお金を出せませんという財政的なことはわかります。私も批判的なことばかり言っているので申し訳ないので、1つ提案をさせていただきたいと思います。自由ヶ丘自治会には、レジャー公園があります。これは旧藤原町の時代につくった公園ですが、都市公園ではありません。資産上は普通財産ですから、転用は容易にできるのだと思います。テニスコートとゲートボールコートがあります。ゲートボールが盛んな頃は、東武鉄道杯ゲートボール大会も行われまして、浅草から臨時電車を仕立て何本も来て一時は盛況でした。しかし、ゲートボールも落ち目になってまいりまして、今現在は使われておりません。テニスコートもほとんど使われておりません。ときたま使っている人もいますが、ほとんど使っていないと同じです。しかしながら、大きな駐車場があります。そういうことも考え合わせますと、いつかはレジャー公園も再生などをしなくてははいけないと思うのです。南側には松林がありますが、松くい虫でボロボロに朽ちていますが伐採すれば土地が使えます。そういうことを考えますと、文化会館をどうするかと、鬼怒川レジャー公園をどうするか、それを合わせて考えたほうがいいのかと私は思っています。敷地は5万8,000㎡くらいありますから、この文化会館はそんなに大きな土地でもありませんし、専用の駐車場もありません。そういう両方の公共施設を考えますと、一緒に考えたほうがいいのかと私は思っております。何に利用したらいいのか、一応提案ですからそこまで言わなくてははいけないと思うので言わせていただきますと、コートと松林の中に野外イベントの広場、その中にそれほど大きくなくてもいいけれども、屋根付きのアリーナができれば、屋根で雨露しのげるので人を集めることもできると思います。様々な企画やイベントもできます。人寄せもできます。コンサートや音楽演奏会なども行えます。そうしたことで、レジャー公園の再生と、文化会館の今後につきまして、一緒に考えていただくのも1つの手かなというふうに思っておりますので、観光振興、地域振興が図れると思いますので、私の提案とさせていただきますので、検討いただければと思います。昨日の自治会研修会におきまして、市長から大事な話がありました。これは、財政健全化するために入湯税を引き上げて、それを財源に充てたいという話でございました。この大事な話が、今日は何も触れてないです。入湯税は全体から上がってくるわけでありません。藤原地域が8、9割だと思っております。そういうことであるのに、こ

の説明会で、そういう大事な話をなしにして、これがまた何かのときに、同じような進め方の繰り返しが行われるのではないかと思ひまして発言させていただきました。まとめて言いますと、古い代々の町長、町議会の人と一緒にいろいろ考え、住民と一緒に考えて、それで今の鬼怒川温泉を築いてきたのです。ですから、藤原地域に明るい話題、夢や希望のある地域提案をしていただくようお願いを申し上げたいと思うのです。それと、一言加えれば、昨日のお話で会館を取り壊す、大原プールは取り壊す、獨協日光医療センターを今市の公有地につくるのだと。藤原にとっては、この頃いい話は何もございません。藤原地域に夢のあるような行政を進めていただければと思います。以上です。

大嶋市長

昨日の研修会で私が言った言い回しは、入湯税に関してこう言ったつもりでいます。こういうわけで財政も大変なので、選挙戦のときに私が言わせていただいたのは、入湯税を上げて2億円ぐらいの税収確保を図りたいという話をさせていただきました。今後、新税を図るとするか、歳入を増やす方法で何がいいのか、庁内でよく検討を始めてまいりたいという話をしました。それから、この文化会館の跡地に関しては、観光に資するもの、地域の皆さんに喜ばれるもの、全員が全員というわけにはいかないですけれども、鬼怒川の地域にとってプラスになるものを、民間事業者からの提案をいただきながらやりたいという話をしたと思います。入湯税に関しては、私は選挙戦のときに言いましたし、今でも有効な財源になると思っています。ただし、先ほど言ったように、鬼怒川温泉地の負担が一番増える部分もありますから、もしかしたら、ホテル全般で宿泊税という考え方もあるのかなと思っています。それも役所の中だけで議論するのではなくて、一般の学識経験者とかにも入っていただいて検討委員会をつくって、新たな歳入の確保について多方面から検討してまいりたいというふうに思います。

上中副市長

財政の健全化の話で、先ほどのパワーポイント12ページになるのですが、収支の見通しを出ささせていただきました。非常に大事な部分で、本当に財政非常事態宣言にも等しいくらいの表になっているのですが、平成39年度には赤字に転落してしまうという話なのです。平成42年度までには、累積すると17億円になってしまいます。これを何とかして解消しなくてはいけないということで、先ほど財政課長のほうからもありましたが、財政の説明の中の一番後ろのページに、どういうふうにしていったらいいかということを示させてもらいました。歳出の抑制をしていかなければいけないということは、皆さんもご存じだと思いますが、職員数とかの人件費も切り詰めて削ってきています。合併当初から平成23年までに200人削って、今も引き続き削っております。1,150人ぐらいいた職員数を、最終的に800人台まで削っていかなければいけないと考えているところです。ただし、削ると言いますが、本当に経費の節約はしています。ただ、いろいろ充実させるために、今までもどんどん新たな補助金をこしらえてきたのですが、その辺も実を言うと、初期の目的を達成したものについては、まだ削減も必要ではないのかなといった視点で、まだ検討を十分にしていなところもあります。今後もそれはやっていかなければならないと思って、来年度から外部の委員さんを入れて、補助金の検討もしていく予定であります。先ほどの新税と言っていていかわかりませんが、その辺についても、来年度早急に委員会等を立ち上げて検

討してまいります。財政はいくら経費を切り詰めても、なかなか劇的に改善するということはありえないので、歳出を切り詰める一辺倒では無理なのです。それなので、歳入の道を考えなければいけないということで、この辺は新たな税財源によらなければいけないということを考えています。例えば、京都市は10月1日から宿泊税というものを導入しました。あの京都がです。一大観光都市で、あれだけ人が訪れているのに、なぜ京都市がそのような宿泊税という新たな税財源を求めなくてはいけないのかと言いますと、あそこもやはり自主財源、特に市税は全体の収入の中の3割しかないのです。通常4割、5割あるところが3割しかないのです。なぜかという、あそこは非被災地域なので、木造家屋が多くて安定的な固定資産税が入ってこないという特徴があります。非常に裕福に見えるのですが、台所事情は厳しいというところがあって、あの京都市ですえ宿泊税を導入しています。箱根町については、宿泊税というかたちでなくて、入湯税も検討したらしいのですが、納税義務者の7割が町外の人らしいのです。そうすると、市税を上げても、それほどの影響がないので固定資産税を上げました。日光市はそういうことは考えておりませんが、そのような工夫をしています。箱根は、国からのお金を一銭も貰ってない不交付団体というところ。そこでも関わらず、税金上げているという話ですから、やはり観光に対する支出、収入に対する支出が多すぎるというところが原因としてあると思っています。そういうふうに言われているので、象徴的に京都市と箱根町の話をしていただきましたが、そこでさえ新たな税財源を求めざるを得ないという状況ありますので、この日光市の中では、これだけの赤字を解消するために、今後その辺にも十分配慮しながら検討していかなければいけないという、その辺が財政の健全化の中身になりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

市民5

旧藤原町のときから皆さん腹の中にあるのは、入湯税を納めるホテルがあるわけです。うちみたいにお湯を使ってないので、入湯税を納めないところもあります。当然、今市、旧日光、足尾など納めないところはたくさんあります。前斎藤市長のときに議長やっていた方が、入湯税に関してどうも不公平感があると。議長に、このお金はどういうふうに使われるのかと、一般財源と言うのです。お客様が来て落としたお金を、源泉徴収のように預かって、市のほうに納める税金なのです。そのためには、ホテルの努力がないとお客さんが来ないのです。ですから、観光目的税だと旅館の経営者が思っているところなのです。観光に来た人から徴収したお金が一般財源で使われてしまう、それが納得いかないのです。

江藤観光部長

全部観光に使っています。

市民5

使っているのです。大嶋市長が言うには、それ以上に使っているのだというふうに話は聞いております。旧藤原町のときのことを話すと、よく町長に言われたのです。観光が発展しなければ、藤原町の福祉はないと、観光立町の町なのだ、これは常々我々庶民にも言った言葉です。市長、やはり観光立市だと思うのです。二社一寺控えて東武電車があって、JRがあって、観光で今どんどんお客さんが来ているからいいですけど、ある方に言わせるとオリンピックまでだと、オリン

ピックが終わると閑古鳥がなくと心配している方がいます。ホテルが日光市にたくさん乱立しています。私たちが一番ショックを受けているのは、民泊なのです。民泊なんて、なんで総務省が許可するのだと、消火器も何もないところでよくやれるなという感想を持っています。何でもありの世界が通じるのだったら、私たちも民泊になりたいです。

上中副市長

少し説明が足らなかったところがあります。財政の歳出の切り詰めの話になると、これだけ厳しい財政状況だと、先ほどの新たな収入はもちろん考えなければいけないのですが、もちろん歳出ももっと削っていかないといけない。そうすると、先ほど入湯税は目的税だとお話がありました。全体の観光に使っているお金というのは、5億8,000万円ぐらいあると考えたときに、そのお金自体も、実はこれだけ厳しければ、当たり前少しづつ節約していかねばいけないのではないかと。例えば、イベントをやるものを少しは控えなければいけないか、もしくは補助金を減らしていかねばいけないかというのが当然出てくると思うのです。普通にいけば、5億8,000万円は削っていかねばならない。そこに入っている入湯税というのは、3億8,000万円なのです。そうすると、残りの2億円は何で賄っているかという、一派財源で賄っているのです。全体として削っていかねばいけないのですが、それを例えば、新たな税財源を少しだけ増やさせていただくことによって、5億8,000万円を削っていかねばならないものが、維持できるかなというところの検討も必要だと思っています。観光立市と言われましたが、その辺を何とか維持していこうというのが発想としてあります。ただし、上げることによって、2億円の一般財源を使っていたところを、それを新たな税財源で埋めることができれば、その2億円というのは、もともとの一般財源として、観光だけではない違うことにも、もしかしたら使える余地があるのかなと、今、そういう発想で考えようとしています。もちろん検討した結果は、皆さんのほうにも説明を申し上げるつもりでありますので、ご理解をいただければと思っております。

市民5

鬼怒川・川治温泉の唯一の収入は固定資産税だと、旅館・ホテルの固定資産税というのは、今、日光市でどれだけ納まっているのかわかりますか。

大嶋市長

何年前までは約70億円あったのですが、70億円割ってきていると思います。

市民5

平成29年度は約66億円です。

それも含めて、やはり観光業には手立てしないと、はっきり言って固定資産税が納まらなくなってしまうのです。東日本大震災のときは、固定資産税を安くしてくれないかと、そうでなければ居宅並み課税にしてくれないかと、ある代議士さんにお話をしたくらいです。当然、一般居宅よりも旅館の部屋は数%高いわけですから、そこら辺もよく鑑みて、観光に手立てしないと、市長、票入らないですよ。

近藤行政経営部長

時間もだいぶ経過しましたが、何かありますか。

大嶋市長

昨日も自治会長会のほうで、話をさせてもらおうと思って忘れてしまったのですが、日光市は観光部一本でやってきたのですが、観光と農業、観光と商工業を連携したほうが観光は強くなると思います。そういう意味で観光経済部という部をおいてやっていきたいというのが、市の考え方なのです。それ以上でもそれ以下でなくて、観光を強くするためにも連携をしてやっていく。独立しているから力を入れているとか、お金を掛けているから力を入れているということに、私はならないと思っていまして、観光部一本でやっていたものが、観光経済部という商工と農林とを一緒になることによって、観光がおろそかになるということはないです。おろそかにするつもりで、一緒にするつもりもないです。そこは、ご安心いただければと思います。

近藤行政経営部長

最後に市長のほうから申し上げます。

大嶋市長

長時間に渡りありがとうございました。ちょっと大人げなく、けんか腰で言われたもので少し熱くなってしまいました。あまり気が長いほうでないので、市長としては軽率だったなど後から反省はしたのですが、本音で言ってしまいました。次回も日光であるのですが、我慢するようになりたいと思います。どうもすみませんでした。私も、なるべく皆様が嫌がることはやりたくないのですが、昨日も自治会長会で言ったのですが、3期12年、合併して最初の斎藤市長の役割と、私は4代目になりますが、同じようにつくり続けるわけにいかなくて、ある程度スクラップをしていくのが、私の仕事かなと思っています。それをやらないと、それこそ平成42年というシミュレーションをしていますが、元号が変わりますから、12年かもしれませんけれども、それからあとの日光市は、持続可能なまちづくりをそのときの人たちにやってもらいたいと思っていますので、そのために、今、我々が何をすべきかというのをやらないといけないと思っています。皆さんがおっしゃるように、500人のホールをつくれと言えぱつくりたいのですが、それをつくると、今度その維持管理費が未来にかかるのです。30年、40年かかっていくということも考えながら、やらないといけないのです。一方で、日光市の高齢化率は33.8%、100人いれば34人が65歳以上です。生産年齢人口も1万9,000人減ります。結果的に納税も減ってくる、人口もどんどん減る、高齢化率も上がる。その中であって、そこに住む日光市民が日光市を支えていくわけですから、その辺も、加味しながらやらないといけないと思っています。人口は減っているのだけれど、日光は住みやすくいいね、福祉や教育、障がい者福祉、子育て支援など、いろいろな部分で充実していると言ってもらうためには、我慢するところは我慢すること、市民の皆さんに理解をしていただかなければならないと思っています。その説明をしていくのが、私の市長としての仕事だなと思っています。もしかすると、4年後落選するかもしれませんが、そこは一生懸命説明をして、ご支持をいただけるよう頑張りたいと思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひします。ご了解をいただいて、文化会館を壊した

と仮定して、皆さんが、なんであのようなものというものをつくる気もありませんし、皆さんから了解のゴーサインがもらえないうちに、全部が全部賛成とにならないかもしれませんが、そこは、ゆっくり皆さんの意見をしっかり聞きながら。民間も、そこで収益が上がらないと建ててくれないのです。ある程度の収益というものを見込んだ中で、何をもって収益とするかというのもあると思うのですが、その辺もよく決まらないうちにフライングして、次の選挙までに何か建ててしまうとか強引にやっていくつもりはありません。ただ、壊すことに関しては、何とか皆さんご理解をいただきたいなと思います。ありがとうございました。

近藤行政経営部長

ありがとうございました。まだまだ、ご意見もあるかと思うのですが、もし何かありましたら、行政経営部の管財課のほうまでご意見お寄せいただければと思います。また、本日、ご説明させていただきました内容につきましては、今月 22 日発行の広報のほうに、同じ内容のものを全戸配付させていただく予定です。周りの方に、機会があれば、その辺の旨も、お伝えいただければと思います。皆さんのお手元のほうに、アンケートを配らせていただきました。後日でも結構ですので、お出しいただければと思います。それでは、本日の説明会は、これで終了とさせていただきます。お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。